



ほっこりインタビュー

中讃地域生活支援センターの施設長としてパワフルに活躍している乃坂施設長に最近ハマっていることなどを伺いました。



中讃地域生活支援センター
乃坂 今日子 施設長

（最近なにか、ハマったことってありますか？）
今年の1月から『一刻館』っていうこの近くの喫茶店に毎日モーニングを食べに行っていました。これまでランチのお店はいろんな所に行っていますが、モーニングを食べに行くっていうのは初めてだったんです。ハマったのは、ここで出会った“癒し系オッサンたち”です。

（きっかけは？）
娘を1月から2ヶ月間毎日、善通寺の学校に病院実習の為、朝7時に送らないといけない事となったのですが、何日か送っているうちに自宅に帰ると“ほっと”して仕事へ行くまで2時間あるので、つつい寝てしまったことがあり、仕事場に遅刻しそうになったので、それを何とかしなきゃと思いはじめました。

（癒し系おっさん？）
私が勝手にそう呼んでいるのですが、向こうからは“五色のねーちゃん”って呼ばれています。このおっさん達が本当に面白くて楽しいです。いろんな職種の人で毎日たわいもないことで議論したり冗談を言いあったりして過ごすのですが、食べ物だったり観光の場所だったり海外の話だったり季節感満載なんです。ここにいると情報が集まってくる感じです。

初釜をする時薪が足りないと言うと自分の畑の木を切ってきて運び出せるように丁度よい大きさに揃えてくれ寄付してくれたり、チーズケーキの話をするとう有名な徳島のホテルから特別に作ってもらったはちみつ味のチーズケーキが届いたりしてとってもこの行動力には感心します。なんだか懐かしい感じと癒しを感じるんです。

（そういう暖かいつながりっていいですね）
今は娘の送りが無くなったのですが、2ヶ月通っていた事が心地よかったので、癒されたいと思うと早起きしてモーニングを食べに行っています。

（この付近にそんなお店があるんですね）
以前、地域活動支援センターI型で喫茶店を法人に提案しようと思ったときに15分範囲で行ける近所の喫茶店を回りランチを食べました。何軒もありそれぞれに特徴があり隠れ家的なお店もありますよ。いつでも紹介します。

新しいデイナイトケア棟ブルミエに、そんなあったかいカフェができたらいいなあと思いを馳せながら、乃坂施設長が“おじさまたち”に囲まれている情景を想像して、ほっこりさせていただきました。

（インタビュアー 上枝 加乃）



西川 明佑（みゆ）ちゃん
平成14年5月21日生
老健 副主任介護士
西川 正治さんの次女です。

お父さんから一言
皆に好かれる優しい人になって下さい。

6月生まれの子供写真を募集しています。（12歳以下の職員のお子様に限る）掲載ご希望の方は五色台日より編集委員までご連絡ください。

おたんじょうび
おめでとう

「地域の消防団活動に参加して」 さぬきのくに 看護師長 金岡 優



消防団は、地域住民が主体となって組織している消防機関です。火災や震災などの災害現場で、消防署と連携しながら活動しています。

私が消防団に入ったのは、今から23年前の平成元年4月でした。消防団に入った頃の消防ポンプ車は、ハンドルが重く運転しづらく消火活動も殆どがレバー式で、レバーが重く複雑な操作で、なかなか動かなかったのですが近年ではコンピューター化されて、ハンドルも軽く一つ一つがボタン式に変わってきており操作も簡単になってきています。また、

最近では各地域で防火・災害活動が盛んになってきており地域の火災も減少しており、年に1回あるかないかになっています。しかし、訓練をしていないと、いざという時に消火活動が遅れたりスムーズに消火活動が出来ない為、最低年2回は（春・秋火災予防週間）地域の消防団で訓練を行います。この時は、本番ながらサイレンを鳴らして現場まで行き放水します。また、それ以外に各部ごと（部団の中で何部かに分かれている）に年に数回、訓練をします。地域の消防団には、分団長1名、副分団長1名、部長1名、班長1名、団員数名（消防団の入団資格は、市町村ごとに条例で定められていますが、一般に、18歳以上で、その市町村に居住しているか、または勤務している人なら男性でも女性でも入団できます。）で成り立っています。また、消防団活動は、消火活動・救助活動・水防活動等があり、それ以外に何年かに1度、県で消防走法大会（大型ポンプ車・小型ポンプ車）があり選手になると40日間の訓練（夜2時間ぐらい）をします。

火災・地震・その他災害は、いつ何時起こるかわかりません。日頃から防災・災害等には十分に気をつけなくてはなりません。また自分なりの防災用袋を準備しておく必要があると思います。

最後に、消防団をいつまで続けられるか分かりませんが、出来る限り地域の為にならばがんばりたいと思います。（ちなみに、消防団員は、全国で約88万人います。）

私が生まれ育った長崎 五色台病院 2病棟 看護師 山口 恒雄



高校生の修学旅行で四国を旅し、川の水が澄み切っていたのと、その石が緑色を放ちとてもきれいだったことを記憶しています。一生に一度でいいから四国で暮らしたいとの願望を持ち続け、それが叶った時は嬉しくて妻と五色台病院で看護師として勤めている娘には感謝しています。香川県は温暖で人情も厚いところ、住みやすい所でした。琴平宮は私の一番気に入った観光地で、何度行っても飽きません。

ところで私の故郷の紹介をさせていただきます。

私の故郷長崎県は島が多く、五島列島、壱岐対馬、平戸などが大きい島です。南部に長崎市と北部に佐世保市があります。まずは長崎市の観光スポットを紹介します。

江戸時代オランダと唯一の貿易港だった長崎、オランダ商館郡で有名なグラバー園や長崎港を一望できる稲佐山は絶景です。又、三菱造船所長崎があり造船も有名です。原爆資料館は原爆の悲惨さを知ることができます。長崎バイオパークは子供さんが喜ぶテーマパークで、カピバラの温泉浴が見られます。

次に佐世保市の観光スポットは、オランダの町並みを再現してあるハウステンボスと西海国立公園の九十九島です。テンボスは皆さんも知っておられる方が多いと思いますので簡単に述べます。四季折々の花と風車が出迎え、子供向けのアトラクションを企画しております。西海国立公園の観光スポットは、海賊船「海王」での九十九島めぐりが人気です。

五島の福江市にもお城と教会があり、長崎県は教会が多いところですが、まだ長崎に行ったことのない方はぜひひ行ってみてください。

老健五色台 介護部 活動報告

野外レクリエーション「お花見」

4月6日(水)老健では、入所されている方総勢29名で花見を行いました。坂出の大屋富にある崇徳天皇、西行法師由来の杜、青海神社へ参りました。当日は、柔らかい春の日和の中、杜は桜の花が満開で淡いピンクの風景に、一同、春の訪れに顔をほころばせていました。時折、春風に舞う花びらが手にした弁当に舞い降りてきて、そのさまに笑い声が聞かれ、ゆっくりと流れる春のひとときを満喫していました。



患者さまの権利について

患者様は適切な医療を受け、安心して療養に専念することができるように次の権利を有しています。

- 1 個人としてその人格を尊重される権利
- 2 自分の受けている治療について知る権利
- 3 自分の意見表明や自己決定できる援助を受ける権利
- 4 公平で差別されない医療及び対応を受ける権利
- 5 通信・面会の権利
- 6 開放的で落ち着いた環境で治療を受ける権利

編集者：五色台だより編集委員会

高橋 照美(介護老人保健施設) 上枝 加乃(五色台病院) 栗岡 秀昭(五色台病院) 漆原 美紀(中讃地域生活支援センター)



五色台病院

〒762-0023

香川県坂出市加茂町 963 番地

TEL(0877)48-2700

FAX(0877)48-2886

ホームページ

<http://www.goshikidai.or.jp>

E-mail gosikihp@mail.kbn.ne.jp

<診療科目>

精神科 心療内科 内科 眼科
歯科

<診療時間>

月～金曜日 午前 9:00～12:00
午後 13:30～17:00
土曜日 午前 9:00～12:00

<関連施設>

デイナイトケア	(0877)
科 プルミエ	48-3887
坂出メンタル	(0877)
クリニック	45-7672
五色台クリニック	(087)
	822-2311
中讃地域生活支援センター	(0877)
	56-3200
グループホーム	(0877)
五色台	48-2811
介護老人保健施設 五色台	(0877)
	48-3300
グループホーム	(0877)
たかもよし	48-3300
居宅介護支援事業所 五色台	(0877)
	48-3310
やすらぎホーム	(0877)
さぬきのくに	56-3035

発行所 中讃地域生活支援センター

発行人 佐藤 仁

発行日 2011年5月1日

医療法人社団五色会 広報誌



五色台だより

2011 Vol.110

5月号

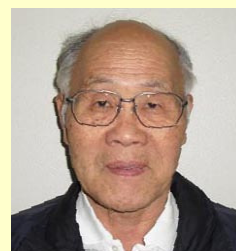


さぬきこどもの国と高松空港

「五色台だより 2011年5月号
発行に際して」

五色台病院

名誉院長 井上 慎三



サクラの季節は終わった。入院中の患者様と施設に入所されている方々は病院の近隣の公園でお花見をされた。そして、サクラの下で楽しい1日を過ごされた。

今年は多くの桜が例年になく咲き方が不揃いであったように思われた。例年は枝の先端まで花が咲き乱れているが、今年は枝先が枯れたようになっているところが多く見られた。この現象は昨年の夏の暑さと、春先の天候の不順が原因かもしれない。五色台病院から周りの山、城山の登山道に沿ってサクラが咲いている

のが見られる。五色台の山肌に見られるサクラは鳥が糞(サクランボ)を食べ糞の中の種を山に落とすことで実生のヤマザクラの木が成長したものである。高松・坂出を取り巻く低い山の松が枯れ、落葉樹に変化して来ていることに関係している。小学生の時(昭和20年代前半)植林をした松が枯れその跡にサクラやカシが大きくなっている(植林した松や杉は50年後には立派な樹木となり、校舎の立替に使用されると先生から説明を受けていた)。これらの落葉樹は建築資材として有効に利用できないものである。また、山には手入れを怠った竹藪が拡大をしてきている。屋島では麓から次第に竹藪が山に向かって拡大して、竹藪から上にサクラが増えている。綺麗であった屋島の松の緑は消失して広葉樹(秋にはモミジとなるが)と竹藪の風景に変化をしている。城山と五色台の緑葉樹がこれ以上減少しないよう願っている。